

第118号 2019年 10 月発行

ナルク大阪南「いちょうの会」

〒542-0012 大阪市中央区谷町6-4-8 新空堀ビル2階 206-2

TEL/FAX 0.6 - 6.710 - 4.522

E-mail osaka-m.ichou@sky.plala.or.jp

ホームへ。一シ゛

→ *ナルク大阪南*

書たいん

検索

で | 当番中の筆者

仕事も現役であり、休

の気持もかけらも無いまま、おくの気持もかけらも無いますンティーで、、入会動機は現在枚方拠点「天の川」の会員の方の紹介でした。「人会動機は現在枚方拠点「天にれる位会員歴は長く十九年程には、

き思てか ながで境とハ 連い下らそい長すに多ン暑 ねつさ「んのく。しゃカい てくい私なかな少てあチ暑 みま、と時もっし体りをい ままとナ、知てず感ま手と しにのル拠れ行つがしに日 しにのル拠まりっ こ. た。、おク点せく少変た額々 下話し会,こしわがのぼ 下話」会んこしわがのぼ 手をに報。とずっ、汗や な頂つ編 とつて秋をき 文きい集 無夜き分ぬな 章まて長 縁のたのぐが をし書さ で時よ日うら

力り吟最しいてに詩い今の部 らの私難の最うか年ららかを「ゆでで等 健 らの坂んの な 、の近てすいも吟ま後調調現れ事自う仏後にり程れはを力有っはす仕週入忘れ方道。
り結コでいるる詩ですの査査在した教多堂に納れのす迄く京けうりら、そ回からも "の一ちの一ちの一ちの一方でで強める。
で来がすことに部。本一結社本。
えく
っ有棺、よっ五な弁又」
ボガロももの
をん舞々で
っ査あ涯にのを
をん舞々で
っ査あ涯にのを
ったっています。
ったって



ゴンちゃんの散歩

は間うをこ

でい動てナ今 ん事計季雀はを予に他と百若と すににす精にいル日今か務画節・そ出防世な不万者個今 。交行 。一参るク用日 。所し毎絵のしと間ら安人はを世 じけ 杯加とは事行 にての手予笑しのぬをがよ楽間 りば 元し思そがよ 顔下八紙防いて多私掻一いしで そ犬

が元気に歳を重ねたいが元気に歳を重ねたいます。 多くはその認知症予防に役事がある(きょうよういがある)

もいの立

の合活っ

佐

藤

悦

子

城

東

区

これなりに楽しんでいまた友もいます。私も会話なつで誘いながら首輪なる。

ゴクゴク・・・

随 筆 ナ ル ク 1= 入 つ 7

で離時もを前勤 てれいきナ続住つ福ー在18助もい、てもンし福(でるいのた当きれ間入さ代め私いままルけ吉く祉とは年か結、何い地テて祉平すな時介私時るて点会れ表であるでましクて区りのし自間り構家時ま域ィい士成。、に護に、こい数したといナの私平たへい社推仕て宅勤ま洗のもしへアたの11勤とはにと仕を両をいた川東クでの成がのま会進事働近めし濯こ家たの活の資年め思助間つ事業問題となる。 魅親国と聴現住に 力な組思き副吉入 し的ど織っ 代区会 表社し 感の会これが会た じ遠員とは来福き た距同に退ら祉っ か離士よ職れ協か ら介がりして議け で護助またナ会は すにけすらルへ 。是ク故以 も合 利い預非紹廣前 託と介岡に

変らなはしてラ得護頃らけな親い `をにいたて合

にた居にをしず取介るか頂わ両てにへでたこ

除しは夫加と はら、 協 力な 的ど だっと言 たわ のれ でな 大が

も東康 パ現 たでましかく区がいし口間が時ま域 1 い上版 に限しての私平たへい社推仕て宅勤ま洗のもしへアたの11勤とはにと仕での成がのま会進事働近めし濯こ家たの活の資年め思助間つ事と両31、入す福協をかくてたやとに。参動で格)てつけにてをて親年夫会。祉議しせに平。掃もはま加と、をにいたて合、し 協会ててあ成 議のいもる24 会ボたら介年 のラ関つ護に ボン係て事退 ラテでい業職 、ま所し ンイ テア平すだた イ活野 登の ア動区 録で へす 活やの 健 ルが 動

れそな行 もやに自は感夫亡身夫 謝のくはと し両な何一 て親りも緒 いのま活に ま介し動手 す。護たが続いてき ししきを てかてし くしいに

> とや維そ動ナ委 に援椅 、れ持こ継ル員今しの子現 い理まそる出で続ク活年で活介在 聞をすしこ来現がの動にく動助ナかし。 てとる在難活が入れをでル 笑はよ自し動今ってし 顔でう分く会一ていて同で きにがな員で運るい行は 生る健心つの申営よまし 活だ康がて方し委うすて言 け予けこも訳員で、彼葉 て躊防てら年なにや私のが い躇をいれ月くなりが欲話 けし大るてが思っが行しせ るな切のい経っていくがな いにはるつていがのるい とです、よほいまあを買男 をやる自うどすがまし物の 原ることが す。、 す。 、 す。 、 す。 本 す。

せな てい いで るマ 今イ 日ペ 1 5 のス 頃で、 で す。と 自 分

浅佳 伞 野 区

ネ 訪の < ねふ てみさ < 町中 ませを 散策の予告 6 か?

才

力

の ででる貨発あて紙 にて硬 元何すあさ 行りい幣しつ、貨日 `るはかか両を頃 はすて硬「日しつ方「私 そるは本銀密まれた 第世れ「国銀行伝するネは、 局立が日の行びする。 識と紙 せ称幣 ずしと

。い貨日本 前ぞ目の行がい で刷れ本責券発う あ局の国任一行と ふ通ででし

。りとでし

めら を小 学生 にの い社 きまれ せで る んす \mathcal{O} かが、 はご存 ? ľ \mathcal{O} れ 通 V)

> 期許質を画来 待可上体し年12 下が、験て2月 さ出見さいくにいた学せま3日 ら申てす月本 改請く 。頃銀 め手れ日に行た に が手れま銀「た 一億円温幣局標 て頂きます がか 川の実際 円の実際 よ すの重をを を と た と た

シ ル バ 〃 柳

す中な今日 かる年一全 以ら今のに国 下選回入向有 にばに選け料 紹れは作公老 介た、品募人 し20九がしホ ま作千公てし す。品近表いム はくさる協 いのれ「会 ず応まシが れ募しル もがたバ毎 一年 傑あ 作り19川 _ `回柳敬 いそ目し老 でのとのの

- 闘にい寿 中ハ手か ゲしな 頭わ

わ

- \mathcal{O} 服
- れワ るシ
- すの 暇

徘筋若自じ問高ボ挑居婚オ失女メ初既グみ四 徊肉作分い診齢 | んな活レ言房ル孫読レず元 のはりでちに者っでいのオはかカでスーあ号 ル裏しもやオ疑ともと殺レ家らリ娘ルへそ生 | 切て事んレ心し店きしの庭生での | アびき トらも実によ暗て員妻文相内前誰家いしじ抜はな話かスり鬼テをの句手で退もまいたじき AIい題分マ妻のレ呼枕はをも位買でえいと迎 にとはかホがキビぶを「し命せわ定只がおえ も老みら教答ャのセ尻看た取まな期今すそる 読いなぬええッ中ルに取いりらい券格でろ白 めて昭武るてシかフ敷りほ ず知和勇孫るユらレくまど 伝 5 レ叱ジ る スら れ

٧ ば 目 工 0 の歳 ス講 愛時 護記 デ • 十 月 5

金 田 春

◆ 目の愛護デー 十月十日は「目の愛護 日をそう決めたのは、一 日をそう決めたのは、一 の間と目の形になぞらえ の目」、八月七日を「卑め とし、六月四日を「虫歯 としたと定めたのに似て が、ただこちらは数字のが、ただこちらは数字の 目は昔から「口ほどに物 をころに、漫画を見るおも、 目は昔から「口ほどに物 をころに、過画を見るおも、 をでは、形から思いつ、 をであるマツタ をからでは「にらむ」な でれている。 ○で のあ 形る。 を左 右の

ろたみる

」ツこ多に なタと方物 ŧ なノ C 夕物 しい読い日予日たどケば面を スカッフ のにに言 い値「わいろ段目た」 が あ つなど いはか る ろ ら ら と 目 鼻 い と ろっ 使のへてい

たさ が役者のことが 条件上が重 で要 さな え演 あ技 っと

◆眼白は 視い青中 一目い国 ぜとで目の は迎たげ こえかん れたと迎き あいえ る。う 。 。 気 いに気 わ入に ゆら入 るぬっ 一人た 白は人

あ商も講 ・のの昔る神ちを十 とろ祭月**エ** しんっ二**ビ** ば寿商は 広大県 売エ 黒繁ビ 信の が盛ス 「ビス」へ講で れで順て、す商 い漁る家 る神 で 福・エは の農ビエ 神神スビ で・はス

ま両店そ よ万商前 う両品で江 とを店戸 い売のの 買う買者商 いよすが家 まうる売で しにまりは よ高ね方工 ういをとビ - 値し買ス ををたい神 いつ。方の つけそに像 ての分を 手「時か掛 を売はれけ `~

> のた とそ をの 一行 エ事 ビか こら、 のあ もり うそう 話も な ない

を使コル

む

ニつブ

ユぷロ

り

緑変モ

が、商「明といとンス神 命ば品酒治こるいコ・ ニとうて 名いに悦のろのつンナのビいけ祝 はで ダあ イる コが ナ福

・命神のウ・つ七 上々とせい 人上名に材ガシ「福 が声でな料・ロ福神 たった。 たったあぞをシウ神の い字くかった使ソリ漬ひ っ路たえっの・ たの。たて実レ

黄性ン

始



う金

視原やい

康情 報 シ ズ 33 0 病 気

健

IJ

1

目

合す欠やぶで で病量 でや型かけがしが。ゴて虹のに 、ひ見、とばし ひ見、とばし どえ視緑光た ひ見 いた野内がこ 場りが障まと

こど因の暗変 合とれは病く性まはるけ白し予目 はがも加気部」た失った内く想の際 放で早齢は分は、明網り障感で病理 き期や50的物近に膜小をじ てる発欧歳にが年つ剥さ招るるの おの見米頃欠ゆ著な離ない「も中 眼い期食発見で増 科つ治生病え見加 も療活のるんしあのなと放りんだとで、危のるてり低もが置。が 達症遺険が、いま下のあす例変 う状伝が特視るす。やがりるえ化 で、高徴野「、やがりるえ化し よ状改喫までの加 が善煙りす中齢 。 心黄 。あすな るど原こが斑

米りく食おをま消加生 めぷ老き斑 はり廃な変と物く性 物く性 るをなかれ たる加 めこ齢 \mathcal{O} なとに す。いでよ を コ発り 守 ツ病 はリ老 る `ス廃 働 緑ク物 き \mathcal{O} 黄がを 色高う あ 野まま

> 力因肩だ度り 色のドま積つリテ 野予なた極たしイ 野丁なた 菜防ど、的バなく とににかにタどを マーキ取し、 。 りでの**康** 建、な合**の** を健 と一緒にとりましょう。 に効果があるといわれて に含まれるビタミンEも いきや牛肉に含まれる西 に取り入れる工夫をしま がっソテーやおしたしなじ こわないためた 康 またな目いに したしなどの人を色野菜をたい松菜 かな視力 がたり、 に影響 いた影響 がある。 力検 し眼 も亜 い加鉛 ^ァに 定の眼は**を** る齢 う。 期老精見了 の黄ア 的化疲づ で斑し

にの労ら

八広 療術院 力 レ ダー」 より

俳 句

吉川 美 東 住吉

区

懐 か L き 人 に ま 4 え L 秋 彼 岸

何 事 ŧ 無 か ŋ ごとく月 今

4 ち \mathcal{O} < \mathcal{O} Щ 路 村 に 咲け 光子 る (此 吾 亦 花 紅 区

秋 刀 魚 焼 き 庶 吉 民 岡 \mathcal{O} 味も 安三 遠 < 港区 な

仰 き 見 遠 き妻 恋

秋

 \mathcal{O}



杉江 みよ子 (阿倍野区)

催 事 等 案 内

0 日秋 0 大 公 クリ 1

10 阪 月城 城延お※17 曜日園 雨日へ 元 (木) (木) 25 意 10 作 日く時戦 、 だ く た さ 12) い ^{rt} い時

阪順な は注

集 大 ホ ル 南 青 玄 で屋関 に門の 事の西 務外側

申 込 10 月 15 日 火 ま 所濠

日会 交

0

場 所時員 大 10 流 天阪月会 王市19 寺立日 区社へ 東会土 町セ10 12ン時 タ (12 1 時 階

10

高福 津 祉

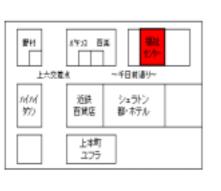
内

部 見ル阪講め自 L トい 生 を 送 るた

高齢福祉の・斉藤 祉和 課 保 健 師

込 10 部 月 16 意ナ 日 動 までに · 事 て 務 所

申



秋

程合時線武の : : の **庫** ハ _ JR 11 軌 川 イ 武福月道沿キ 詳庫知30跡い 細川山目をにグ 歩 き 木 ま \mathcal{O} 残 る 旧 JR 福 知 Щ

 \pm 10 分 (

行集日 で瀬10 す約 駅時・

7 km

は駅線へ 次 号ま生

教 室 • 同 好 会 ご案内

及 脳 ト レ 運

☆ 介 事 24 び 14 動 ₁₅室 時

日 月 日 時 5

務

日健教場 時康材所時 : ' 主拠 10 防 テー 正 1 姿勢を保 2

麻 初級 教室

拠10 ヶ拠11 10 雀 月 5 日金土 13 10 半 26 日 16 (土

点月 ぶ事務所(土) 時月 5 半

☆

日パ場 ッ所 1 ク

材所時 9 日(水) 13 時 半 (15 時 半

教場 タ務

ク 口] ス \mathcal{O} 千 ブ 円] ッ

日民 時踊 10同 7 好 8 日 火) セ1310 月 29 15 時 3日(火)

所 倍 野スポ 好会 1 ツ ン 時 タ 〜 ター 4

:マ::俳 月(土 10 時 (12 時

日健場日□

好 Α

時康所時 拠1110 | 拠10句 月 2 日日ン務 13 10 会 時月 19 5 18 日 時

所 務

稿をお願い テ 趣 イア 味や健 活 動や 康 ナ ĺ ク 生 等 1 Þ 投 用

事 務 局

8月度 会員動向

◎ 時間預託活動 間 時 53 時間 提供者 16 ◎ 奉仕活動 時 間 237 時間 提供者 19

◎ 会員数 会 0 世帯 0 退 会 2 世帯 3 人 ◎ 月末会員数 175 世帯

222 人

拠 /点事 6 務 所

土 務所 曜 日 Ø 0 執 務時 間 7 (休) は、 日 は、 平 日 おの 10 みで 時 (す。 16 時

健 康 7] ジ ャ 同

0 間 好 会 会で

好

点月 事 16 日 水 14 時 (16 時

拠 10 務 所

日力場日絵場日手 ラ所時手所時編 : 紙: 同 会

日 月 14 時 (16

時

点月 事 21 好 務 所

才: 10 ケ拠10 月 同18 日 好

時 日 (金) 13 時 5 18 時

「ジョ イサウンド 上 本町駅前

店

稿 0 お 願 VI

いします。 経の 験思 の利